

中国新聞 2016年7月4日(月)



黒メバルの稚魚を放流する神内小児童

笠岡 神内小児童が稚魚5000匹

笠岡市神島の神内小児童116人が、近くの浅王海岸で、黒メバルの稚魚5千匹を放流した。

総合建設業天野産業(七番町)の水産資源係「豊かな海づくり協会の活動の一環。児童は横一列に並び、体長約5センチの稚魚十数匹ずつをバケツから放した。初めて体験した6年小西藤君(11)は「大きく育ってほしい。海も汚さないように注意したい」と笑顔を見せた。

同社は4年前から放流をしており、天野和彦社長は「魚が多くすむ豊かな海になるよう続けたい」と話した。大島美の浜漁協によると、稚魚は5年ほどで約20センチ育つという。(谷本和久)

「大きく育て」黒メバル放流

山陽新聞 2016年7月5日(火)



メバルの稚魚を海に放つ神内小の児童ら

美しく豊かな笠岡の千匹を放流した。

海を取り戻そうと、神内小学校(笠岡市神島)力会」の幹事を務めるの児童らは1日、神島(天野産業(同市七番町)なびつくランドの海岸)が全校児童116人をからメバルの稚魚約5千匹を放流した。同社の天野和彦

メバル 大きくなーれ

天野産業 児童招待 稚魚5000匹を放流

笠岡

社長が「魚のすみやすい環境づくりに関心を持ってほしい」とあいさつした。

児童たちはバケツに体長5センチ程度の稚魚を入れてもらい、「大きくなーれ」と声を掛けながら次々と海に放した。6年森悠綺君は「沖に向かって元気に泳いでいった。メバルが立派に成長できるように、ぼくたちも海を汚さないよう心掛けた」と話していた。

今回の放流は、笠岡地区漁業連絡協議会や豊かな海づくり協会の、県、笠岡市などがアマモ場の再生や海ごみ回収を進めるために5月に結んだ連携協定に基づく事業の一環。この日、各団体メンバーも手伝いに訪れた。

(斎藤英宗)

開会式



放流に参加した園児達



放流したメバル幼魚



おさかなクイズ



園児達による放流風景



関係者集合写真

